

P2-036

小児がんに関する網羅的情報データベースの構築：新聞記事データからの検討

高尾 憲司

京都学園大学 健康医療学部 看護学科

【目的】

新聞社の記事データベースから小児がんに関する情報の特徴をテキストマイニング手法により探索する。

【方法】

研究対象：X新聞社が保有している記事データベースを用いて、キーワードを「小児がん」、日付を「全期間：1986年以降」として検索し、検出された1871件の新聞記事。

調査時期：2015年7月13日

調査項目：発行年、記事内容

分析方法

小児がんに関する新聞記事1871件から、X新聞社が著作権を有していない新聞記事16件を除いた1855 (99.1%) 件を分析対象とした。これらの小児がん情報の特徴を探索するために、分析ソフトは、(株)NTTデータ数理システムのText Mining Studio 5.1を用いた。公表内容に個人情報や著作権への問題の有無について、事前に新聞社へ問合せ、利用の承諾を得た。

【結果】

小児がんに関する新聞記事の時系列による推移を確認した。1988年から1995年までの8年間で掲載された記事は6件、1996年から2005年は1051件、2006年から2015年7月までは、798件であった。小児がんの新聞記事の内容を概観するために、単語頻度解析を行い、上位30の結果を抽出した。単語頻度解析において、名詞は、「小児がん」、「子ども」、「家族」、「病気」、「がん」、「治療」、「小児がん征圧募金」、「募金」、「小児がん征圧キャンペーン」といった単語が多く抽出された。係り受け頻度解析は、上位20の結果を抽出した。係り受けは、「戦うー子どもたち」、「小児がんー戦う」、「病気ー戦う」、「病ー戦う」、「子どもー守る」、「子どもたちー支援」、「子どもたちー励ます」が多く抽出された。また単語頻度解析と同様に「募金ー呼びかける」、「小児がん征圧募金ー呼びかける」、「小児がん征圧募金ー受け付ける」といった寄付関係の単語が多く抽出されていた。

【考察】

X新聞社の「小児がん」に関する新聞記事を西暦によって分類すると、低位期 (1988～1995年)、上昇期 (1996～2005年)、減少期 (2006～2015年) の3つの時期に分類することができた。1996年以降の新聞記事の上昇は、X新聞社とX新聞社会事業団によって、がんと闘う子供たちの実態を報告した企画記事をきっかけにキャンペーンが始まったからであると考えられる。またX新聞社が社会へ発信している小児がん情報の内容は、小児がんに関わる人たちへの擁護の姿勢をもち、キャンペーンやチャリティー公演で盛んに募金活動を行い、小児がん征圧を目標としていることがうかがえた。